

第5回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議
議事要旨

日時：平成29年3月28日（火） 10：00～11：30

場所：八代市鏡支所3階 大会議室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

八代市（会長）	副市長 永原 辰秋
八代地域農業協同組合	代表理事組合長 田島 幹雄
八代地域農業協同組合	女性部長 前田 るい子
八代森林組合	代表理事組合長 西坂 栄樹
八代漁業協同組合	代表理事組合長 宮本 義孝
一般社団法人DMOやつしろ	事務局長 長石 祐司 <u>※代理出席</u>
熊本県県南広域本部	総務部長 江藤 公俊
中九州短期大学	学務部長 教授 川井 健次
八代市金融協会	熊本銀行八代支店長 嶋尾 禎 <u>※代理出席</u>
独立行政法人 中小企業基盤整備機構	地域活性化支援チームアドバイザー 西田 光宅
連合熊本県南地域協議会	事務局長 網代 博明
株式会社 エフエムやつしろ	代表取締役 多田 満
（欠席）	
八代市市政協力員協議会	会長 徳田 武治
八代商工会議所	会頭 松木 喜一
八代市商工会	会長 黒木 計
一般社団法人 こども・子育てあいねっと八代	代表 澤井 美香

<配布資料>

会議次第・出席者名簿、席次表

会議資料1 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

会議資料2 地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金事業について

1. 開会

2. 説明

(1) 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

- ・ 会議資料1 説明（企画政策課）
- ・ 次年度の本推進会議の開催予定について

(2) 地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金事業について

- ・ 会議資料2 説明（企画政策課）
- ・ 会議資料2は、本年28年度に、国の交付金を活用して実施した4つの事業について、行政内部で、各事業の効果検証作業をおこない、事業実施による成果や課題、またそれらを踏まえた今後の事業の方針について取りまとめた資料。本日は、この行政内部での効果検証結果を説明した後、意見交換では、各事業の数値目標や事業の成果・課題などを踏まえて、事業の良かった点や、改善点、今後の取組方針等に対するご意見を賜りたい。
- ・ また、行政内部での検証結果と委員の皆様に行っていただく外部検証の結果については、来年度に国への報告を行うとともに本市HPでの公表を行う予定のため、別紙評価票にて事業の評価をお願いしたい。

— 質疑応答 —

○（事前質問）会議資料2「八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業」に関連して、今後も増加が見込まれる大型クルーズ船の入港に伴い、多言語対応やおもてなし人材の確保が急務である。そのため英語や中国語、観光について学ぶ学生を夏休みなどの長期休暇の際に受け入れてはどうか。また日奈久地区等の空き家や空き旅館を活用した新たなビジネスについても積極的に受入れていただきたい。

●「八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業」は、市内高等教育機関卒業者の圏外流出と企業の人材不足という課題を解決するため、主に企業と若者の接点を作り出すインターンシップ事業を展開するもの。ご提案の大型クルーズ船入港時や少人数の外国人旅行者に対する多言語対応やおもてなしのための人材確保はとても重要と認識している。そのため、観光面での取組みとして「海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト」を実施しており、日奈久地区の空き家ビジネス等も含めてDMOやつしろにもご協力いただきながら、具体的な事業を検討してまいりたい。

○リーファーコンテナとは何か。また、現時点で八代港から輸出できる食品の輸出品目が限られているという説明があったが、詳しく聞きたい。

●リーファーコンテナとは、冷蔵・冷凍の保存機能を有した輸送コンテナのこと。

●コンテナ輸出に関しては、小口の品物を混載したコンテナを輸出する仕組みがあるが、現在の八代港の設備ではそれができないため、単品でしか荷が出せず、結果として輸出品目が限定されている状況であるということ。

○会議資料2のP6「地域宿泊観光客数」の数値目標について、実績が目標値を上回った要因のひとつとして、市内の宿泊施設や飲食店・土産品店・観光施設等で利用できる「八代版ふっこう割プレミアム付き宿泊券」を発行したことが考えられるとの説明だった。この「八代版ふっこう割プレミアム付き宿

泊券」は継続されるのか。事業費はどのくらいか。

●「八代版ふっこう割プレミアム付き宿泊券」の事業費は2,500万円、現時点での利用者数が約7,000人。熊本地震以降キャンセルが9,000人以上あり、それを補うための今年度に限った誘客事業である。また、宿泊券により初めて本市を訪れていただいたお客様を十分おもてなしし、次年度以降も多くの方々にリピーターとなっていただくためのきっかけづくりの目的もあり実施した。

○今年度に限った事業ということだが、来年度は観光客の減少も見込まれるということで理解してよいか。

●今回地方創生交付金を活用して、ご指摘の部分を下支えするような事業を展開する予定。宿泊促進を目的に、夜の観光の仕掛け作りとして、今年度の3月に2回、日奈久の温泉街で花火を打ち上げ、宿泊客に好評いただいた。八代は花火の町というイメージがあると思うので、来年度も月に1回程度予定しており、リピーター獲得に繋げたい。また、前川から見る夕日も大変美しいということで、サンセットクルージングやナイトクルージング、坂本町の八竜展望台等での夜の観光のための仕掛けづくりに取り組み、宿泊者数が落ち込むことのないよう取り組んでいく。

― 意見交換 ―

○観光事業及び観光DMOの取り組みは全国的にも推進されており、先進的な取組であると思う。昨年12月に熊本県が設立した「くまもとDMC」との連携予定はあるのか。また、くまもとDMCの勉強会にて、東京のマーケティング会社により熊本県の観光に関するビッグデータを使ったプレゼンテーションがあった。その中で、特に熊本県のポテンシャルの高いものとして、観光農園及びグランピング（キャンプ場のサービスを高級ホテル並にした高級グランピングのこと。）が挙げられた。こういった情報も活用しながら、くまもとDMCとも連携して取り組まれてはどうかと思うがいかがか。

●くまもとDMCについては、昨年事業概要の説明を受け、今後の連携について協議し、先ず勉強会を実施することとなった。またDMOやつしろについては、まだマーケティングが十分行えていないという反省点があるので、そういった部分でくまもとDMCと連携等していければと考えている。グランピングや農林水産省が進めている農泊については、本市としては、市内宿泊施設が50ほどあり、こういった既存施設をメインに使いながら、農泊や屋外での宿泊といったものについても併せて推進していく必要があると考えている。

○熊本県の農産物の海外輸出の多くは博多港を経由している。熊本県全体の大きな方向性として、八代港の活用にシフトしていくように、輸出品目の精査や物流ヤードを作る等していく必要がある。ある程度整備された施設が港にないと、継続した青果の輸出に繋がっていかない。早急にはいかないと思うが、港湾を拠点とした流通のストックヤードや物流倉庫の考え方が必要ではないか。

●博多港の周辺では、民間事業者において様々な農林水産物に対応した施設整備が進んでいるということもあり、ご指摘のとおり博多港に荷が流れている状況。ただ、九州の農林水産物の半数以上が南九州で生産されている実情もあり、それらを八代港から出せればということで、八代港ではフルガントリークレーンやリーファーコンテナに対応した施設整備が進みつつある。こういった周辺整備が進むことで、八代港からの輸出や民間投資が促進されることも期待している。本市としても、博多港から八代港へという方向性のもと取り組んでおり、今年度も昨年に引き続き、八代港から晩白柚を輸出することができた。なし・いちご・トマトについても、八代港からの輸出が実現するよう努力してまいりたい。また、

トマトについては、現在の航路での輸出に向けて、熊本県フードバレーアグリビジネスセンターにて輸送試験に取り組んでいる。

●物流については、熊本県と物流拠点構想について議論を始めている。また、熊本地震のときに、一部の荷が博多港から八代港へシフトしてきてきおり、道路復旧後、また博多港へ戻るものと予想していたが、意外とそうでもなかった。八代港の利便性がわかってこられたのではないかと感じている。

○合併前の市町村単位で宿泊施設や観光施設の整備がされている。そういった施設の利用実績や活用方策等について分析しなおして、観光客のニーズにマッチングさせるといったことで活性化に繋げていただきたい。合併して10年経過したので、そういった見直しや現状把握をし、DMOの事業等に繋げていただければと思う。

●市内の各施設についても再度見直しを行って、地域の活性化に繋げてほしいというご要望だと思う。関連して、最近、新たな農林水産省の事業として、農泊事業に対する補助制度の紹介があった。これまでの農林水産省の事業は、生産・流通に重きをおいた事業が多かったが、観光客の増加等を目的とするソフト的な事業への支援がはじまったということで、農林水産業を下支えする事業の裾野が広がったと感じた。こういう事業もうまく捉えて、本市の農林水産業の魅力を発信していけるよう検討してまいりたい。

○稼ぐことができれば地元に残ることができると思うが、農家でも子どもには農家を継がせないという方もおり、農業の跡継ぎの問題もある。どうやって地元に残ってもらうかが課題。

●「八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業」では農業については深掘できていない状況であるが、U J I ターンの入力等とも絡めながら、農業部門も含めた地域の産業活性化について課題と捉えて取り組んでまいりたい。

●農林水産政策課では、新規就農支援として、新規就農者への助成金、夫婦に対しては夫婦加算金を準備している。新規就農のためには、農業ができる環境・土地が重要だが、八代平野部においては圃場の整備が進んでいることもあり、就農される人を増やしていくことが課題となっている。中山間地では、地域の特産物をメインに新たな後継者を育成していくことが課題である。新規就農や跡継ぎ問題については、全国的にも難しい課題であるが、土地の面から考えると、県内では環境は整っている方であると認識している。更に、向上するよう取り組んでまいりたい。

○若者が魅力的に感じるポイントは収入。農業は魅力的だが、若者に対しては、どう農業が魅力的であるかということをも具体的に示す必要がある。市内の農家で年間1,000万円以上稼ぐ方のお話を聞く機会があったが、そういった事例に若者が触れる機会や具体的に農業の魅力を伝える材料が少ないと感じている。昔のイメージで、働く割に収入が少ないといった固定観念が根強くあると思うが、その辺はいかがか。

●若者が農業について理解できる場があるのかという質問だと思う。八代では農家数は減っているが、農業生産額は平成18年以降年々増加傾向。このことから一軒当たりの収入も増加してきていると言えると思う。ご指摘のとおり、農家以外の方にはなかなか伝わっていないと思う。本市の農業の実態を農家以外の皆さんにもお知らせするような機会を検討してまいりたい。

○毎年農業高校の卒業式に行くが、卒業生で家業を継ぐ子は一人か二人程度。Uターン者等、一度別の

仕事を経験されて、農業を始める方が年間 20～30 人程度という状況。農業に対するイメージは様々あると思うが、八代の農業は全国でもトップクラス。JA やつしろだけで、今年の販売額が 260 億円ほどの見込み。農家によって収入の格差が生じないよう JA としても取り組んではいるが、卓越した経営手腕を持ってやられる方は億単位を稼がれる方も少なくない。今後も県、市等と連携して更なる発展に努めたい。

●本市の有効求人倍率は、1.75 くらい。求人はあるが、現実に就職に繋がっていない、マッチングが上手くできていないという現状がある。そのため、学生に企業の仕事や魅力を知ってもらい実際に就職に繋げることができるようなインターンシップの構築を目指す取り組みを進めている。農業に関しては、郡築や鏡では後継者の若者が多い。作るだけでなく、加工や流通に上手く繋げて稼いでいってほしいからだと思う。そういったことを、データのわかりやすく提供していくことができればと思う。

○総合戦略では、特に農業がクローズアップされていると感じた。例えば晩白柚は、輸出をされているということだが、水産業については、そういった土俵に乗るための環境整備等についてもお考えいただきたい。

●水産業に関しては、成功例として「青のりめんべい」の商品開発を支援させていただいた。好評をいただいております、昨年より 10 倍の素材を納品できた。輸出のほか、6 次産業化や農商工連携の取り組みにより、出口をしっかりと作っていきたく考えている。また、青のりについて、市外でもっと高価格で買っていただけるように商品パッケージのブラッシュアップに取り組んでいるところ。農業のみならず、漁協等とも連携し本市の所得向上のために取り組んでまいりたい。

○物流拠点構想については、来年度において更に検討を進めていく予定である。県南広域本部としても、今後も様々な面で八代市との連携をお願いしたい。また、八代市総合戦略には八代市が県南地域をリードしていくというような気概が示されているので、市職員の皆様に対してもこの部分を意識付けしていただきたい。

3. 閉会

- ・委員の皆様やご所属の団体様からご意見やご提案などがあれば、「意見等提出票」かメールにて事務局までご提出いただきたい。また、本日説明した 4 つの地方創生交付金事業については、別紙様式にて、事業への評価をお願いしたい。
- ・次回の推進会議は、10 月頃の開催を予定。次年度においても引き続きご協力をお願いしたい。